

第1部会【市民協働部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：平成29年度 第9回 東区自治協議会 第1部会
- 日時：平成29年12月8日（金）午前10時～午後0時20分
- 場所：東区役所 会議室A
- 出席者：長谷川委員、作左部委員、和田委員、三島委員、月岡委員、野村委員、江川委員
（事務局）地域課、総務課

【審議内容】

1 平成29年度区自治協議会提案事業（発災時の地域防災体制支援事業）について

①情報伝達訓練報告書について

別紙のとおり、情報伝達訓練後に行った振り返りの内容を取りまとめました。

②区自治協議会提案事業 事業評価書（中間評価用）（案）について

前回出された意見を踏まえて取りまとめました。

2 平成30年度区自治協議会提案事業（発災時の地域防災体制支援事業）について

災害時の情報整理について、市が現在検討している新しいシステムでは、無線機ではなく、タブレットやスマートフォン端末を活用した仕組みが検討されており、全コミ協を対象に実施することも想定されるため、実施概要の記載を一部修正することにしました。

【事業概要（案）】

- ①地震などの災害時において、地域内の連絡体制や地域から区災害対策本部へ被災情報を伝達するための体制を構築するため、地域コミュニティ協議会（※）でワークショップを開催する。

※平成28年度からの継続事業であり、これまで未実施の地域コミュニティ協議会を優先して実施する。

- ②構築した体制に基づいて、地域内で情報の伝達訓練を実施し、振り返りを行う。

【予算案】

ワークショップ委託料	33万円
通信機器レンタル料	60万円
郵便料	2万円
消耗品費	10万円
合計	105万円

3 区自治協議会のあり方検討の方向性について

事務局からの説明後、各検討項目について意見交換を行いました。

【次回開催日】

日時：平成30年1月12日（金）午前10時～
会場：東区役所 会議室A

①山の下地区コミュニティ協議会

感想	<ul style="list-style-type: none"> 各自治会の代表・補佐2名ずつが参加し、実際の災害に備えることが必要だと感じた。 伝達訓練（特に無線機の扱い）は全自治会が参加して、繰り返し実施すべき 訓練の必要性を実感した。 無線機の操作方法は簡単でよかった。 相手が聞き取りやすいマイクの話し方があった。 指揮官用の無線機があってもよい。 事前に無線機のやり取りのシナリオを作成したのは大変良かった。 		
問題点	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集体制の組織的な整備が必要 被害状況の想定は現場を見ないと想定ができない。 無線機の操作方法の不慣れ 無線機だと自分が話した声が相手に届いているかわからない。 鉄筋コンクリート造の建物内での通信は不良であった。 一時避難場所と指定避難所との通信が聞き取れなかった。 		
今後の対策	<p style="text-align: center;">地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 訓練の際には、全自治会から最低2名ずつの参加が必要 防災管理体制の見直し・整備・確立 シナリオがあれば訓練及び本番でもやりやすい。 コミ協での情報伝達訓練の計画・立案・実施 午前の訓練後すぐにコミ協内で反省会を実施し、多少のまとめをしてから午後の振り返りをした方がよい。 報告する内容は事前に調査集計し簡潔にまとめておく。 集会所によってはストップ禁止になっているが使用も検討が必要 	<p style="text-align: center;">行政</p> <ul style="list-style-type: none"> 高性能な無線機が必要 同時通信の無線機が良い 行政で無線機を用意してほしい 	<p style="text-align: center;">協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の訓練として行政と地域が同時・同組織で実施してもよい。 繰り返しの訓練 シナリオの充実 報告書は数字を入れるだけの様式がよい。

②下山地区コミュニティ協議会

感想	<ul style="list-style-type: none"> ・報告するのに時間がかかった。 ・無線機の取扱いが容易でスムーズに実施できた。 ・無線機は感度も良好で、取扱い方法もシンプルでよかった。 ・無線機の場合、要領良く話す必要がある。 ・実際の災害時に機能するか不安 		
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・集合場所が2箇所になる場合は事前に決めた方がよい。 ・訓練に女性の参加も必要 ・無線機での操作方法の不慣れ ・本部の無線機は予備電源が必要 ・無線機が使用不可の際の連絡方法 ・天候の良い日と悪い日で通信への影響は出ないか。 ・混線すると連絡が取れなくなるのではないか。 ・今後無線機を各町内で購入する場合の管理方法の指針が必要 		
今後の対策	<p style="text-align: center;">地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合場所の統一 ・リーダーの服装の統一 ・本部との連絡係が必要 ・コミ協主催で、年一回の訓練 ・多くの役員から参加 ・学校との連携 ・簡潔にまとめた説明書・手順書 ・無線機を町内に備える。 ・災害があった際、誰でも無線機を取り扱えるように、早めに購入して各自治会で練習をしないとけない。 ・通話終了時の言葉の統一を徹底する ・通信可能な場所の確認と定期的な通信訓練 ・本部への予備バッテリーの配備 ・アマチュア無線グループの活用、組織化 	<p style="text-align: center;">行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の訓練では避難者数の報告だけでよいのではないか。 ・携帯電話の優先通話の登録をしてもらえないか。 ・無線機の増設 ・行政が無線機の管理指針を定める ・無線機は有効であるため、将来自治会に何台かずつ配置してもらい。 	<p style="text-align: center;">協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車、バイク、徒歩での情報伝達も必要 ・予算措置をどうするか ・情報伝達訓練を継続して実施する。(コミ協と区役所で協働し、再度計画する)

③桃山校区コミュニティ協議会

<p>感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミ協災害対策本部がしっかりとした指示をする必要がある。 ・ 初めての実施だったが、収穫があった。 ・ 今回は無線機が事前に用意されていたが、無いときの対応が大事 ・ 無線機の操作が不慣れで、情報がうまく伝わらなかった。 ・ 無線機での連絡で敬語は不要 ・ 本部には無線機に詳しい人がいた方がよい。 		
<p>問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害所在地は、丁目、番地だけではわかりづらい ・ 朝鮮学校との通信に不具合があった。 ・ 報告書様式の欄が小さくて書きにくい。記入方法が伝わっていない。 ・ ライフラインが駄目になった場合の対応 ・ 送受信の用語が統一されていない。 ・ 人命等の状況把握に時間がかかる。 ・ 各家庭への情報伝達（一斉放送） ・ 倒壊家屋等における状況確認と調査 ・ 食糧等の数量の確実な配送 ・ 無線機は受信感度が良好な場所に設置する必要がある。 ・ 無線機を含め、必要機器の調達・配備 ・ 無線機は定時連絡の時間を指定すべきではないか。 ・ 無線機では、声が割れたり早口だったりすると、よく伝わらない。 ・ 今回は携帯電話があったため、無線機が繋がらないことがわかったが、実際にはそれがわからない。 		
<p>今後の対策</p>	<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害所在地は、具体的な建物・バス停など目印を書く。 ・ 地域の地図の配布 ・ 特命担当を予め決める。 ・ 近隣避難所との情報共有 ・ できるだけ大勢に参加してもらおう。 ・ 防災ラジオを備えておく ・ 訓練を重ねて、適切な無線機の設置場所を確認しておく。 ・ 避難所に無線機を常時設置したい。 ・ 一時避難場所にも無線機を設置したい。 	<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書様式の原因・状況欄については、○印や×印で記入できると早く処理ができる。 ・ 報告書様式を1地域1枚の書式にする ・ 当コミ協だけの通行止めだけでなく、周辺コミ協の道路状況もフィードバックすべき ・ 道路が使用できないことを行政に連絡するが、区民にわかるように速やかに連絡できるのか考えてもらいたい。 ・ 町内一斉放送設備の整備 	<p>協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各集会所・避難所に水・プロパンガス等の備蓄が必要 ・ 地域と行政の連絡を密にする。（この種の訓練を開催する） ・ 必要な食糧等の数量を互いに確認する。 ・ 各家庭で在宅か避難しているのかがすぐにわかる目印があるとよい。

平成29年度 発災時の地域防災体制支援事業 情報伝達訓練報告書

	<ul style="list-style-type: none">• 無線機の通信が良好な場所を事前に確認する。• 誰でも取扱いができるマニュアル・手順書の作成• 無線機での用語の統一 (役所の言葉ではなく、日常の言葉で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none">• 報告内容をもっと指定すべき• 無線機の手配	
--	---	--	--

④木戸地域コミュニティ協議会

感想	<ul style="list-style-type: none"> 無線機の音が飛んでしまい、聞き取りにくかった。 情報を聞き取る場合、相手が早口だと記録するのが難しかった。 		
問題点	<ul style="list-style-type: none"> 無線機での報告内容と最終のまとめた報告書の内容が違っていた。 指定避難所運営と情報伝達が一体化していない。 報告書様式の内容が細かすぎる。 指定避難所と一時避難場所の情報が一緒になって届いたが、別々の方が良い。 避難所の運営と情報伝達の担当者の決定方法。 一時避難場所が、市のHPに掲載されている場所と今回の訓練の場所が異なる。 避難所へ食料はどのくらいの時間に届くのか。 プレストークボタンの取り扱い。 場所によって電波状況が異なる。 一時避難場所から直接本部に連絡があった。 無線機を扱う場所が適切ではなかった。 		
今後の対策	地域	行政	協働
	<ul style="list-style-type: none"> メモ用紙を用意して記録する。 報告連絡は簡潔明瞭に 数量等は相互に確認することが必要。 無線機では報告者の名前を確認することが必要。 赤ランプ点灯したら通話する。 無線機の受信状況を前もって確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 無線機を使用してみて、有効だったので購入配備をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手に参加してもらう工夫が必要